

スクランブル



編集・発行：品川区大井第二地区スクランブル編集委員会
大井2-27-20 大井第二地域センター内 TEL(3772)2000 FAX(3772)2076
ホームページ <http://www2.city.shinagawa.tokyo.jp/jigyoo/01/01/d0211.html>

編集委員：青少年対策大井第二地区委員会・山中小学校PTA・大井第一小学校PTA・原小学校PTA・伊藤中学校PTA・OG

東京都水道局が平成十九年度から開始した「学校フレッシュ水道（公立小学校の水飲栓直結給水モデル事業）」の品川区モデル校に大井第一小学校が選ばれ、リニューアルしました。
そこで、子どもたちにも好評な直結給水について関係者の方々にお話を伺いました。

直結給水方式

ビルや校舎など蛇口がたくさんある建物は、一度貯水タンクに水を貯め、それをポンプで屋上の高架水槽に上げてから蛇口に水を送ります。この方式は災害時に水を確保できる利点がある反面、使用水量が少ないと水の鮮度が損なわれる欠点もあります。学校の場合、月曜や夏休み明けはタンクの水をしぼらく排水しなければなりません。また、高架水槽経由の水は暑い日には水温が上がり、生ぬるくなってしまう。それらを解消するのが直接蛇口に水を送る直結給水です。

学校フレッシュ水道

水道局はなぜこのモデル事業を始めたのでしょうか？
東京都水道局サービス推進部の岩崎浩子広報サービス課長によると学校直結給水は水道PRの切り札だそうです。
「東京の水道水は昭和四十年代に水源の川の水が汚れ、かび臭かった事があります。」

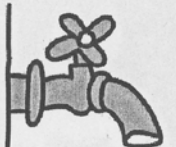
その対策として、浄水場にオゾンや活性炭を使った高度浄水施設を作りました。今ではおいしい水になってきているのですが、局のアンケート調査でも蛇口から直接水道水を飲む方は、あまり多くありません。局ではその原因の一つが貯水槽での滞留だと考えています。せっかく浄水場でおいしい水を作ってもこれでは努力が実りません。特に、将来を担う子どもたちが蛇口から離れてしまつては、東京の水道は誰にも飲まれなくなってしまう。
そこで始めたのが、小学校の水飲み栓を直結給水にするモデル事業なのです。」

2系統化システム

水道局が都民に蛇口から直接水道水を飲んでもらうために、かなりのエネルギーを費やしている事が分かりました。次に品川区では、この水道局の取り組みをどのように見ているのか、品川区教育委員会庶務課の石塚久施設係長にお聞きしました。

「区内の小学校は、昭和五十年代に老朽化した給水管の取替工事を実施していますが、時間もた、修繕が必要な所も出始めていましたので、タイミングが良かったと思っています。トイレや非常時用の貯水槽のストック機能は欠かせませんが、今回のモデル事業は水飲み栓だけを直結にする2系統化なので安心です。個人的には全校に採用し

おいしくなった!!学校の水



てほしいのですが、区ではまず、耐震化や大規模改修工事を終えた学校で実施していく事になります。そうした視点から水道局と協議して大井第一小を選びました。」
なお、山中小学校は来年度から入る耐震強化工事が一段落してから導入を検討するそうです。新しい伊藤学園は高架水槽を使わず地下の貯水タンクから直接蛇口に水を送る方式だそうです。

リニューアル大井第一

大井第一小学校では、昨年の夏休みに工事が行われ、廊下やグラウンドの水飲み場など子どもたちがダイレクトに水を飲む蛇口は全て直結給水になりました。

工事後、児童と教員を対象に行ったアンケートでは「おいしくなった」「いつでも冷たい水が出る」などの回答が



「冷たくておいしくなった」大一小の水

多く寄せられました。
伊佐副校長先生が「工事後は休み時間のあと、水飲み場の蛇口が上を向いていることが多く、水を飲んだら蛇口を下向きにしましょう」といつも子どもたちに注意しているんですよと笑顔で話して下さいたのが印象的でした。
水飲み場には直結給水のステッカーが貼られていて、今日も子どもたちは安全でおいしい水を飲んでいきます。元気に走り回った子どもたちが、ゴクゴクと水を飲んでいく姿が目につかひますね。

【伊藤、斎木、福島】

水道キャラバン

水道局品川営業所も訪ね、近藤透所長にお話を伺いました。

「モデル事業と並んで力を入れているのが『水道キャラバン』です。これは小学校四年生を対象に寸劇を交えながら水道への理解を深めてもらおうというものです。また、都は大震災に備えた応急給水拠点を整備しており、区内には戸越公園など3カ所あります。営業所では地域センター単位での応急給水訓練のお手伝いもできますので、お気軽にご相談下さい。」

品川区に供給されている水は、朝霞浄水場というところで作られており、高度浄水処理した水が含まれています。実際に我が家の水道水を飲んでみると、確かに癖のないおいしい水でした。

発見！まちのグルメ

～豆腐屋さんの油揚げ～

おかずにおつまみにデザートに・・・

主役も脇役もイける食卓の万能選手お豆腐！

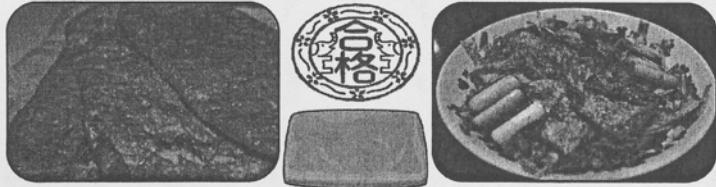
原町商店街にある手作り豆腐のお店へお邪魔してみました。

しっかり大豆の味がきいた甘くて美味しい手作り豆腐を作り続けて50年以上、2代目ご主人にお話をうかがいました。



豆腐作りでこだわっている事は、「何ととっても安全な食品をお届けすること」とご主人。大豆は国産の他、米国産・カナダ産などを使用しますが安心して食べてもらえるように豆選びをしているとのこと。また、豆腐作りは気候に左右されやすく、気温の変化などに合わせてにがりの量や煮方を変えるそうです。

数ある商品の中で「一番のお勧めは？」との問いに、「油揚げ！」とは、ちょっとびっくり。てっきり「もちろん豆腐」と返ってくるものだと思っていました。ふっくらした油揚げを作るには、普通の豆腐以上に煮方・にがりの振り方に気を使うそうです。



ご主人の思いが詰まった油揚げ、シンプルにたれ焼きでいただく、ほっこり優しい気持ちになりました。【鈴木】

そうだ、公園へ行こう。

＝ゴドモ達・オトナ達に捧ぐ、身近な癒しスポット、公園の魅力再発見レポート＝

③滝王子公園 <大井5-19-5>

大井図書館・滝王子児童センターの横にある公園。平成20年度、改修工事予定。

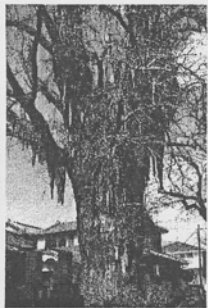


プチアスレチック気分が味わえるよ★ ロープを使ってグイグイ登ってね。意外と角度が急なので、足をすべらせないように注意！ゴールのすべり台から軽快にすべり降りよう！【上田】

周りがネットで囲まれていて、小さいながらも、十分キャッチボールなどのボール遊びが楽しめるスペース。都会では貴重(?)なこの空間を、是非活用しよう！【五十嵐】



滝王子児童センター前の丸太では、2人で端から相手の陣地に進んでいく『どんじゃんけんぽん』が楽しめるよ。陣地を奪われないように、じゃんけん勝負だ！いろいろな公園で出来るから是非やってみてね。【鈴木】



現在の大井六丁目、明治時代まで「田」として利用され、南には品川用水が流れていました。古くは「鹿島谷耕地」と呼ばれ、「字鹿島谷」という呼び名を経て、昭和七年より「大井鹿島町」となりました。名前の由来は大井村の鎮守である鹿島神社があることから。文政三(一八一〇)年より大井囃子がおこなわれ、今もなお伝えられています。また、大井村の由来の一つに上げられている、「大井の井」がある光福寺もこの地域にあります。この二つの場所には、光福寺のイチヨウ(左写真)や鹿島神社のタブノキなど、品川区の指定文化財である樹木も多くあります。



ノスタルジアわが町

其の五

さらに、この町で忘れてはならないのは「大森貝塚」。明治十(一八七七)年にモースにより発見されたこの遺跡は、日本の考古学の始まりの場所として全国に知られています。現在の地には、大森貝塚遺跡庭園が作られています。

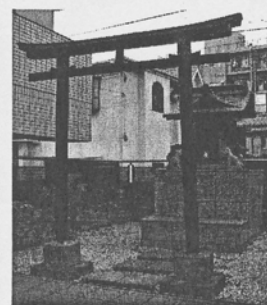


庭園内の碑

鹿島町の名前に思いを馳せながらこれらの場所を巡り、品川歴史館で品川区の文化と歴史に触れてみてはいかがでしょうか。【上田】



庚塚(かのえづか・かねづか)は鹿島神社の西南区境あたりで、鹿島町と出石町の一部を含め大井七丁目になりました。かつては大井村の中心で名主も多く住んでいたようです。



歴史上、由緒・伝統のある親しみ深い旧町名の由来などを各各、「まち」の原風景をシリーズでお届けします。

庚塚は、岡田氏屋敷内の小高い塚にある稲荷を「庚塚稲荷」と呼んだ事に始まります。今も鹿島神社の庚(西)、池上通り沿いの飲食店前に稲荷(右写真)があります。しかも階段の途中一まさに小高き塚です。また、鹿島神社の向かい側、大野氏屋敷の桜は絵地図「大井桜園」に記されています。今も『みどりの家保育園』のあたりには数本の桜があり、毎年、私たちを楽しませてくれます。さらに池上通りを西に入ると用水路跡や保存樹の大木、屋敷稲荷も残っています。町会名や公園名でしか庚塚を耳にしなくなりましたが、どこか懐かしい街のたずまいは、歴史の痕跡が感じられるからなのかもしれません。【嶋村】